

特集

島根の 手づくり図書館

コトバトン……………2

はらっぱ図書館……………3

- 図書館の上手な使い方
県立図書館の新聞コーナー活用法 ……4
- あなたのまちの図書館めぐり
浜田市立三隅図書館……………6
隠岐の島町図書館……………7
- お知らせ……………8



との縁結び

島根県立図書館報

<http://www.library.pref.shimane.lg.jp>

図書館だより

2019

第211号

2019年11月25日発行



夕暮れの島根県立図書館 (正面玄関入口付近)

島根県立図書館イメージキャラクター
ぶっまくんとしおりちゃん

島根の手づくり図書館

近年、県内では個人の方や有志のグループで作られた読書施設の話題を見聞きすることが増えてきました。このようないわば「手作り図書館」のうち、5月に誕生したばかりの「コトバトン」と地域の人々の交流の場となりつつある「はらっぱ図書室」を紹介します。

「コトバトン」 JR出雲大東駅舎内

令和時代になって間もない5月11日、JR出雲大東駅舎内の一角に本棚が設置されました。「駅を利用する中高生のための本棚を作ろう」という、雲南市出身の公務員・錦織宏さんの呼びかけで、地域住民から寄贈された本が約200冊収められています。これらは、大人から中高生にすすめたい本として1人2冊以内で持ち寄ってもらったもので、なかには本の表紙裏などに、読んでほしい理由や中高生へのメッセージが書き添えられているものもあります。本棚は雲南市から譲り受けたもので、この日集まった有志メンバーの手により爽やかな水色で塗り直されました。駅舎の一角でひととき存在感を放っています。



ブックスタンドも手作り



プロの指導でペンキ塗り



JR出雲大東駅舎内に設置された本棚

これらの本は、中高生に限らず誰でも自由に借りることができ、1か月ほどで返せばよいそうです。感想を書くことのできるノートも置いてあります。駅舎を管理している住民団体「つむぎ」代表の南波由美子さんは、「本棚が設置されて以来、立ち止まって本を読んでいる中高生の姿を毎日のように目にするようになったし、大人の方にも利用されている」と、嬉しそうに話してくださいました。

発起人の錦織さんは昨年、本を処分する必要に迫られたときに、捨てるのも売るのもためらわれ、「これで何か地域の役に立つことができないか」と、駅に中高生のための本棚を作ることを思いついたそうです。雲南市や駅舎を管理する住民団体「つむぎ」の協力を得て、塗装業やデザイナー、工務店関係者、島大生などの知人と一緒に計画を練り実現したこのプロジェクトは、“読んでもらいたい本を読んでもらいたい人へ届け、「言葉」と「事」をバトンする”という思いを込めて「コトバトン」と命名されています。今後は、折に触れてビブリオバトルや朗読ライブなどのイベントを行い、その都度新たな寄贈を受ける機会も設けたい、とのことでした。



発起人の錦織宏さん

この「コトバトン」という本棚プロジェクトには、たくさんの方の「地元を盛り上げたい」、「若者を応援したい」という思いが託されていることがひしひしと感じられました。地域の人々が交流する拠点として定着し、未長く親しまれてゆくことでしょう。



JR出雲大東駅舎内の様子

コトバトン 〒699-1221 雲南市大東町飯田38 JR出雲大東駅舎内
※JR出雲大東駅の営業時間に準じて利用できます

「はらっぱ図書室」 山の駅さんべ内



「自分らしくいられる場所をつくりたい!」そんな思いで、東京から大田市に移り住んだ夫婦が私設図書室をつくりました。その名も、「はらっぱ図書室」。国立公園に指定されている三瓶山の麓にあり、図書室の前には高原が広がっています。

発起人の西嶋一泰さんは、2016年に地域おこし協力隊として家族とともに移住しました。三瓶の山村で、小さい子どもを育てることになった奥さんは、知り合いをつくる機会が少なく、家にいる時間が長くなっていました。その



状況をなんとかしたいと考え、夫婦で話し合い、思いついたのが「本」だったそうです。

「本のある空間をつくれば、気軽に長く居続けられ、また家族以外の人と本を介してゆるやかに繋がり、自分らしくいられる居場所になる。」これだ!と思い立ち、さっそく三瓶山の西の原にある山の駅さんべにスペースを借りられないか相談しました。すると快諾をもらったので、構想から2ヶ月、2017年9月9日に、はらっぱ図書室をオープンしました。



古本販売コーナー

本棚は山の駅さんべのスタッフ等から譲り受け、本は自分たちの蔵書や寄贈されたものから夫婦で選書しています。絵本や小説、郷土本、教養書、コミックなどが、コンセプトに合わせて各本棚に収められており、訪れる人の好奇心をくすぐります。居心地が良く、人と出会う場所でありたいとの考えから図書室内での飲食やおしゃべりを自由に、現在は地元の人たちだけでなく、観光

客の立ち寄りもあるそうです。目の前の高原を生かして、外でも読めるように、レジャーシートも貸し出しています。

図書室の運営資金は、古本販売の売上でまかなっていて、一箱古本市などのイベントにも出店しています。図書室の入り口前にも無人販売の古本コーナーがあり、西嶋さんによるセレクト本が並んでいました。

今は図書室の整備が落ち着いてきたので、次のステップとして本を持って外に出たくなる展示やイベントを考えているそうです。5月にお試しで始めた「SANBE CLOUD」では、雲の絵本や関連する本を一緒において、のんびり雲を眺める会を開きました。

この他にも、去年の西部地震で落ち込む町を応援するため、三瓶温泉街の一角で「ぼかぼか図書室」を開設するなど、広がりを見せています。今後のことを伺うと、食と絡めたイベントなどもやってみたいが、自分たちがまず楽しむことを忘れずに無理なく続けていきたい、とのことでした。これからの活動が楽しみです。



SANBE CLOUDの様子(1)



SANBE CLOUDの様子(2)



ぼかぼか図書室

はらっぱ図書室

〒694-0223 大田市三瓶町池田3294 山の駅さんべ内
平日 10:00~16:00 土日祝 10:00~17:00 木曜定休 冬季休業
※山の駅さんべの営業時間に準じます ※図書室の本は貸し出ししていません

県立図書館の新聞コーナー活用法

探索 スタート!

新聞を読みたい!

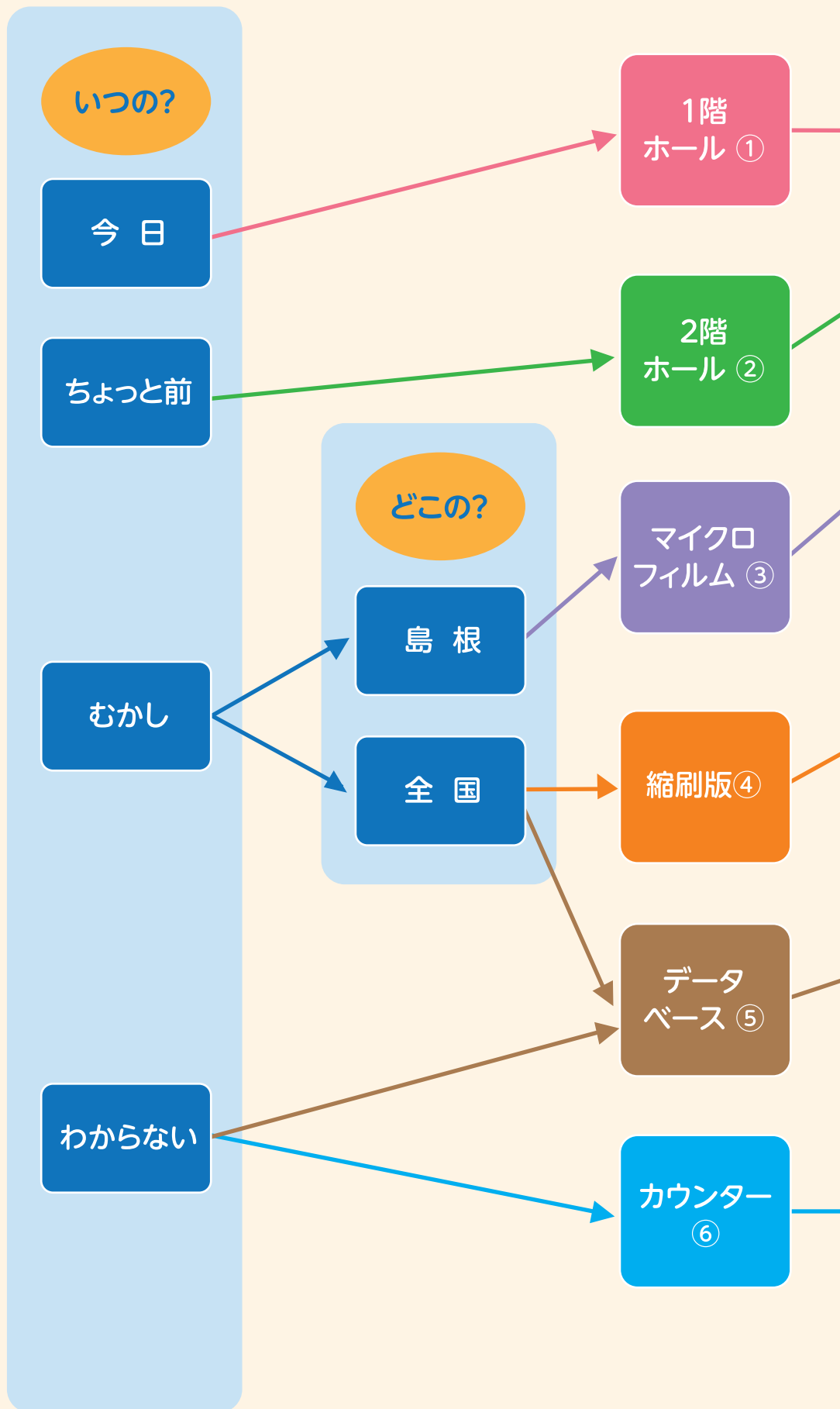
記事を探したい!

例えば……

台風●●号の
被害状況を
調べたい。

長寿のお祝いに、
おじいちゃんの
誕生日の新聞を
コピーして
プレゼントしたい。

アクアスの
シロイルカの
「ミラクルリング」の
名称は、
いつ決まった?



世の中の日々の動きを教えてくれるニュース。毎日お気に入りのテレビのニュース番組を見るという方もあるでしょう。ちょっと前にあんなことがあったはずだけど… そんな過去の出来事を調べたいときには、活字として残されている新聞が便利です。また、インターネットでは取り上げないような地域の記事を読めたり、自分で検索しようとは思わない世界を知ったりするのも、新聞の魅力ですね。島根県立図書館には色々な新聞があります。ぜひ活用してください!

県立図書館で 閲覧できる主な新聞

①1階ホール

本日の新聞は、1階ホールの新聞閲覧台でお読みください。当日分の新聞は、コピーできません。

②2階ホール

直近3か月(山陰中央新報は2年)の新聞を自由に閲覧することができます。さらに前の新聞は、書庫に保管していますので、カウンター職員にお申し込みください。

③マイクロフィルム(郷土資料室)

古い新聞は大変破れやすく、扱いが難しくなるため、写真に撮影したもの(マイクロフィルム)を使用しています。郷土資料室のマイクロリーダーでご覧ください。山陰中央新報のほか、朝日及び毎日新聞の地域版が閲覧できます。

④新聞縮刷版

全国紙の東京最終版が収録されています。字が小さいのが難点ですが、何年何月ごろ、といった大雑把な日付の記事を探すときには便利です。明治、大正の新聞縮刷版もあります。現行の縮刷版は、朝日、日経、毎日、読売の4紙を購読中です。

⑤データベース(参考資料室)

オンラインデータベースで、過去の記事のキーワード検索ができます。朝日新聞(1945年~当日)と日本経済新聞(1949年~当日)があります。百科事典のような感覚で「できごと」を検索することもできます。参考資料室の専用パソコンをご利用いただけます。

⑥カウンター

図書館職員にご相談ください。情報探しのお手伝いをいたします。

永年保存

- 山陰中央新報
- 毎日新聞
- 島根日日新聞
- 朝日新聞
- 読売新聞

20年保存

- 日本海新聞
- 日本経済新聞
- 中国新聞
- 産経新聞

10年保存

- 日刊スポーツ
- 日本農業新聞
- 日刊工業新聞
- 毎日小学生新聞
- The Japan Times
- 赤旗
- 日経産業新聞
- 朝日中高生新聞

2年保存

- 聖教新聞
- 図書新聞
- 週刊読書人
- 電気新聞

コラム 一番古い山陰中央新報は何年?

現在の名称である山陰中央新報としては、昭和48年3月からになります。ただし、以下のとおり何度も紙名が変わっています。

紙名	期間
山陰新聞	明治15年5月~昭和16年12月
松陽新報	明治34年11月~昭和16年12月
島根新聞 ※	昭和17年1月~昭和27年3月
山陰新報	昭和27年4月~昭和32年9月
島根新聞	昭和32年10月~昭和48年3月
山陰中央新報	昭和48年3月~現在

※山陰新聞と松陽新報が合併

あなたのまちの図書館めぐり

島根県立図書館の職員は、県内市町村の図書館などを各館年2～3回訪問して、スタッフの方と直接情報交換を行っています。その地域の特徴や暮らす人々を知り、島根県の図書館全体が活性化するように、ネットワークづくりに努めています。

浜田市立三隅図書館「和紙の温もりに包まれた図書館」

浜田市三隅町には、9号線から少し入った小高い丘に、^{せきしょう}石正美術館、石州和紙会館、スポーツが楽しめる三隅中央公園、小・中学校に専門学校と、いろいろな施設が集まっている場所があります。その一角に平成25年5月にオープンしたのが、浜田市立三隅図書館です。

平成21年にユネスコ無形文化遺産に登録された「石州半紙」の産地である三隅町らしく、図書館には和紙がふんだんに使われています。入口に目を向けると早速、自動ドアのガラスに和紙があしらってありまし



た。入ってすぐ左にあるカフェテラスの奥は畳スペースになっており、障子はもちろん、壁紙や座椅子のクッションカバーも和紙です。カウンター前の通路を抜けると、木と和紙の温もりに包まれた空間が広がります。明かり取りの窓の障子や、壁の照明の笠も和紙。表示もアクリル板に和紙が挟まれています。屋根は石州瓦で太陽光パネルが設置してあり、地元素材を活かして環境にも配慮された図書館です。

三隅図書館は、本の展示に力を入れています。館内には7ヶ所の展示場所があり、毎月テーマを変えて紹介する本を入れ替えています。一つ一つはさほど広いスペースではありませんが、7人の職員が1ヶ所ずつ担当しておられ、それぞれ個性的です。5月にお邪魔した時は、「時短料理」「短歌」「ちよこっと興味ある雑学文庫本」「母の日」などのテーマで展示してありました。



利用者の方からも、本を選びやすいと好評だそうです。

館内奥にはおはなしの部屋があります。目に付くのは、壁に貼られた大きな作品です。毎月第2土曜日におはなし会があり、そのあとに「ぺたぺたアートワーク」という工作を行います。子どもたちが折り紙などを使って作ったその月のテーマの作品を、職員が用意した大きな台紙にぺたぺたと貼っていくのです。5月はクローバーの描かれた大きな台紙に、てんとう虫を貼りつけた作品が飾られていました。

おはなし会は他にも、季節ごとに小学生向けにも行われます。また、英語の本の読み聞かせや英語を使ったゲームを行うハロウィンパーティは、毎年仮装をしてやってくる子どもたちもいて盛り上がります。これら子ども向けの行事は多いのですが、もっと大人向けの企画を増やすというのが今後の目標だそうです。

さまざまな施設が集まっているという立地から、いろいろな世代の人がやって来るといふ三隅図書館。「本に興味を持っていただけるよう、毎月いろんなテーマで本を紹介しています。きっと読みたくなる本が見つかると思います。気軽にお立ち寄りください。」とのことでした。



和紙でできたクッションカバーと壁紙

【浜田市立三隅図書館】

開館時間：火～金10時～19時、土・日・祝10時～18時

休館日：毎週月曜日、年末年始、月末整理日

貸出冊数：10冊まで（AV資料はそのうち2点まで）

隠岐の島町図書館 「利用者の期待に応える図書館」



今年で開館20周年を迎えた隠岐の島町図書館。総合体育館や文化会館、役場など、町の主要施設に囲まれた場所にあります。建物は平屋建てで、高窓にはめ込まれている色鮮やかなステンドグラスが印象的です。書架が連なる場所は天井が高いため圧迫感がなく、木のぬくもりを感じながら落ち着いて本を選べます。

約100種類の雑誌が並ぶ雑誌コーナーは飲み物を飲んでも良いスペースにしているので、のどを潤しながら好きな雑誌を読み進めることができます。館内では職員が積極的に挨拶をしていて、

利用者が声をかけやすい雰囲気がありました。

普段から利用者とのコミュニケーションを大切にしており、その成果を運営に役立てています。低年齢向けの英語絵本を購入したきっかけは利用者との会話からでした。外国語絵本は児童コーナーの目立つ場所に置いてあり、今では家庭だけではなく、学校の利用もあるそうです。

また、平成30年度から設けたファミリータイムも、小さい子どもを図書館に連れていくのに気が引けるとの声聞いたためでした。子どもがうるさくしたらと心配で、ゆっくり本を選べない保護者が気軽に来館できるよう、毎週日曜日(第3日曜日を除く)の朝10時から12時は多少賑やかになってしまっても良い時間にし、一般の人に理解してもらえるようお願いしています。ファミリータイム中は、お話会や図書館のおもちゃを開放して、子ども



外国語絵本コーナー

を連れのお父さんや友達と遊ぶ子どもの姿を見かけるようになったそうです。

他機関との連携も活発で、隠岐の島町役場保健課と協力して塩分測定器の貸出を行っています。日ごろから図書館を利用している役場職員からの申し出によって始まったこのサービスは、今年で5年が経ち、今では図書館だけではなく公民館図書室でも貸出しています。隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会とも学習の拠点として連携し、図書館主催の講座やジオパークコーナーを設けています。訪問時には、隠岐高校の生徒がおこなったジオパーク学習を紹介するミニ展示をしていました。

毎年秋にある西郷文化祭にあわせた図書館まつりでは、古本市や町民の作品展、ライブといったさまざまな企画をボランティアの手を借りながら開催しています。利用者との関わりを大切にしている図書館だからこそ、協力してくれる人がいるのだと思いました。

今後も注目する図書館の一つです。



ミニ展示の様子

【隠岐の島町図書館】

開館時間：10時～18時

休館日：毎週月曜日、第3日曜日、年末年始、月末整理日

貸出冊数：10冊まで(AV資料はそのうち3点まで)

「島根県立図書館 運営方針及び活動計画」を策定しました。

島根県立図書館では、第3次「島根県立図書館振興計画」が終期を迎え、社会の様々な状況の変化や課題に対応するため、新たに今後5年間の図書館運営における基本的な考え方や方策の方向性をまとめた「人づくり、地域づくりに資する知の拠点を目指して一島根県立図書館 運営方針及び活動計画」(2019年度～2023年度)を策定しました。第3次の基本理念である「県民一人ひとりが個性を発揮し社会の一員として自立する『人づくり』と、心豊かに暮らせる活力ある『地域づくり』に資する『知の拠点』」を踏襲し、以下の①～④の4つの目標を掲げました。

- ①「人を育てる図書館」
- ②「地域を支える図書館」
- ③「暮らしに役立つ図書館」
- ④「郷土の歴史・文化を伝える図書館」



今後も県民の皆様によりよい図書館サービスを提供できるよう努めて参ります。アンケートやパブリックコメントなどご意見をいただきありがとうございました。また、これに先立って、子どもの読書活動に関する施策を定めた第4次「島根県子ども読書活動推進計画」が島根県教育委員会によって策定されました。それぞれの計画の全文は、以下のホームページでご覧いただけます。

「島根県立図書館 運営方針及び活動計画」 

▶ http://www.library.pref.shimane.lg.jp/?page_id=208

「島根県子ども読書活動推進計画」 

▶ <https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/syougai/dokusyo/>



I N F O R M A T I O N

島根県立図書館 利用案内

- 開館時間／火～金 9時～19時(3月～10月)
9時～18時(11月～2月)
土・日・祝日 9時～17時(通年)
 - 休館日／毎週月曜日(休日の時は開館)
第1木曜日、年末年始、特別整理休館
- ※詳しくは開館カレンダーをご覧ください。

〒690-0873 島根県松江市内中原町52
TEL. 0852-22-5733(図書) / 5725(事務)
FAX. 0852-22-5728
ホームページ <http://www.library.pref.shimane.lg.jp/>

人と人の縁結び 図書館だより

は、本を読む楽しみを味わえるビジュアル情報誌です。しまねの、本・人・図書館にまつわる話題をお届けします。皆さんの「本のある暮らし」を応援します。

島根県立図書館報
図書館だより 第211号
2019年11月25日発行
編集・発行／島根県立図書館



島根県立図書館イメージキャラクター
ぶっくまくとしおりちゃん